

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295300251		
法人名	株式会社ワムタック		
事業所名	コンフォートウェル藤枝(2ユニット共通)		
所在地	藤枝市五十海1-14-23		
自己評価作成日	令和3年 2月 2日	評価結果市町村受理日	令和4年 3月 29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和4年 2月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

蓮華寺池公園が近くにあり気候が良い時に散歩に行けます。四季の花や取りなどが見られ季節を感じてもらえます。施設の前には神社があり、年明けには皆様とお参りに行きます。周りが静かなので利用者様も穏やかに過ごせています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

蓮華寺池公園に近い環境の良いところに事業所があり、また幼稚園、小学校、高等学校が近くにあり交流が図られている。事業所と家族が常に連絡を行っているため、利用者の様子やご家族の要望を聞き受け入れる体制がとれている。重度化した場合や終末期の対応は、全ての関係者全員で話し合い対応をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の他、施設の理念があり、毎朝職員で唱和を行い、浸透させている。また理念に合わせて職務を遂行している。	事業所の理念「笑顔で暮らす楽しい我が家」と職員行動指針を4項作成し、週1回のミーティング時に確認している。家庭的な雰囲気づくり、さらに家族や地域との関わりも大切にしていける事が理念に謳われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、交流の機会がなかった。以前から交流のある近隣保育園より敬老会で園児よりプレゼントを頂きました。町内会費を納めており、町内会の回覧板を閲覧している。	日常的に近隣に散歩に出掛けたり、職員は市民の憩いの場である蓮華寺公園でパンフレットを配り事業所の周知を心がけている。コロナ禍のため高校生などのボランティアは自粛しているが、地域の幼稚園とは関わりを継続出来るよう交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントがあれば参加してきたが、コロナ禍によりイベントの機会がないため、施設内で工夫して暮らしを楽しんで頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により運営推進会議の開催は困難ではあるが、定期的に写真や各種報告書を送付し状況報告をしている。今後は書面によりご意見を頂き、利用者サービスに活かす予定である。	令和3年4月より、書面においても開催できなかった。3月に書面で事業所の状況、事故報告書、ヒヤリハットなどをお知らせを町内会長、民生委員、包括支援センター職員、、住民、家族などに送付する準備をしている。	今後参加者よりいろいろな視点で意見を聞いて、施設の運営に活かしていく事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	藤枝市地域包括ケア推進課・介護保険課の職員と連携を取り、質問や相談等ご指導を頂いている。	認定調査の連絡を行い、利用者のニーズを具体的に伝え連携を深めている。また事故報告書を提出し、相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしている。身体拘束廃止委員会を設置し定期的に施設内研修を行っている。基本的に玄関の施錠はしていない。	身体拘束廃止委員会を設け活動している。ミーティング時にケアを振り返り、声かけなどで言葉をさえぎったり、気持ちを押さえつけたりしていないか検討をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会のスタッフは、高齢者虐待について外部研修(ウェブ研修)を受けて施設内研修で受講内容を伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、管理者やケアマネより職員研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前面談や契約当日に実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。家族との連絡ノートを作りご要望を記入して頂いており、運営に関する内容のご意見を頂ければ反映していきたい。	計画作成者は週2回家族と連絡を取り意見を伺っている。また受診同行により事業所を訪れた際に話を聞いている。コロナ禍のためか食事のことや、食べたいものを購入してほしいとの要望が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回コアミーティング・施設内全体会議を行い、毎回ほぼ全職員が参加し、その都度意見や提案を聞く機会としている。またスタッフが業務改善提案しやすいよう書式を用意している。	常に管理者、主任が面談をして思いを聞いており、全体会議では意見や提案を聞く機会を設けている。職員は年2回各自目標シートを作成し、提案したことが反映出来るように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材育成規程に基づき、定期的に職員面談を重ね、スキルアップややりがいなど向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	週1回法人幹部・管理者会議を実施し、各管理者は直接代表者に相談したり指示を受けている。コロナ禍により外部オンライン研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ企業内で合同研修や勉強会・報告会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者情報を職員間で共有し、入所前から心身の状態を把握し、入所後は安心して生活できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス担当者会議を開催し家族の要望を伺っている。また必要に応じて電話にて日常の様子を報告し、その際家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談の段階で色々な状況や要望を聞き出して、ニーズや課題を引き出し、一番適切なサービスを紹介するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には常々「利用者と共に共同生活を行う」というスタンスについて指導しており、職員もその認識で業務にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	報告、連絡、相談を定期的実施。信頼関係を築くよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に施設側から連絡することはないが、訪問者や電話連絡があれば取り次いでいる。コロナ禍により、馴染みの場所に出かける機会がなかった。	以前は馴染みのところにドライブに出掛けたり、また自宅が寺院の方などは地域に深い思い入れがあり、事業所とご家族が寄り添い共に支え合う関係が構築されていたが、今はコロナ禍のため自粛している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に心掛けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の状態や本人・家族の要望を取り入れた施設サービス計画書を作成している。ケアプランは介護・看護スタッフも共有して把握している。	日々の関わりの中で話を伺い思いをくみ取っている。言葉や表情を詳細に記録し、職員間で共有をし何をしたいのか検討をしている。またご家族にも要望を聞伺っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に聞き取り、また以前の担当ケアマネジャーと連携をとり把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時に聞き取り、また以前の担当ケアマネジャーと連携をとり把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書はないが、課題とケアの在り方について、サービス担当者会議にユニットリーダーも参加して、内容をユニット内会議にて介護スタッフに伝達してケアの方向性を決めている。	計画作成担当者がミーティング時、職員と現在の状況や課題、ケア方法などを話し合い、モニタリングと計画の再作成をしている。ご家族には電話で意見等を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	クラウド型ケア記録を使用し、全利用者の記録等の情報を職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。機能訓練が必要な利用者には施設看護師、法人内作業療法士より指示をもらい支援し、既存サービス外の取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントがあれば参加してきたが、コロナ禍によりイベントの機会がないため、施設内で工夫して暮らしを楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2、もしくは1回の訪問診療があり。内科医による定期的な健康チェックを行い、24時間365日医療連携している。他科診療が必要な際、家族と協力して受診援助をしている。	15名は事業所の協力医がかかりつけ医で、月1回から2回訪問診療を受けている。3名は家族がかかりつけ医に同行し受診している。また皮膚科、眼科などの受診も家族が同行している。薬局と連携しているため、事業所に届けてくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを看護職員に相談している。看護職員が常勤で配置されており、適切な看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実施している。地域の総合病院の相談員と連携を取り合っている。入院の際、早急に情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針を策定しており、入所時に説明して家族より同意を頂いている。また看取りの際、関係者と密に連携をとり取り組んでいる。	重度化や終末期のあり方、対応については、家族に入所時説明をしている。事業所は令和3年に2名の看取りを行っている。訪問診療時、医師や計画作成者、リーダー、看護師、ご家族で今後の方針を話し合い、カンファレンス時全員で共有する。またケアに関する不安などの職員のメンタル面の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を実施しており、緊急時のフローチャートを施設内に掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練(内1回は夜間想定)、年1回消火訓練を実施している。コロナ禍により地域の合同訓練は実施されていない。	消防署の参加協力を得て、夜間対応を含め年2回実施している。水消火器での訓練も行っている。また1週間分の非常用食料・備品の準備をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を年1回行い、職員に指導している。接遇・スタッフ向上委員会を設置しており、委員会で毎月の目標を掲げて毎日唱和し、利用者への接遇や言葉使いに気を付けている。	本人の気持ちを大切に話しをする時も、否定せずにさりげなく言葉かけをするように努めている。特に排泄時トイレの扉の開閉、個室の扉の開閉には配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時「もう少し寝たい」と訴えがあれば、時間を空けて食事提供する等、臨機応変な対応を心掛ける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ペースで日々過ごせるように取り組んでおり、お客様に合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を選択できる方には行ってもらっている。選択できない利用者は職員が選択して利用者に聞きながら介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けができる利用者は少ないが、食事前の準備やおやつ作りで並べたり混ぜたり、盛り付けを職員と一緒にしている。	事業所外より冷凍の食材を購入し、事業所で温めて準備をしている。週1回の手作りおやつや、月1回のテイクアウトを楽しみにしている。食前に嚥下体操、食中には音楽をかけた工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施している。栄養士が低栄養にならないよう確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	弊社取締役の歯科医師・運営歯科医院の歯科衛生士により指導・助言を受けて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく自立を促している。排泄の意思がない方に対しては排泄のリズムを把握してトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を作成し声かけをして、トイレでの排泄をしている。オムツ使用は2名、他の利用者はパットのみで生活をしているが、一人ひとり見直しをしながらおむつやパット類などが合っているのか検討をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医・看護師・薬剤師にその都度相談して指示を受けている。飲食物の工夫はしていないが、毎日体操を行い、運動することを心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間が概ね決められており、個々の希望やタイミングとなっていない。入浴拒否がある方には希望のタイミングを見計らって支援している。	週2回午前中に30分～40分かけて入浴している。入浴を拒否をする利用者には、一人ひとりに合わせた時間などを考慮し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実施している。心穏やかになれるよう、就寝前には静かに過ごす時間を設けている。寝たくない方は寝たくなるまでフロアで職員と一緒に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師の指導のもと、用法・用量の把握をしている。看護師に相談して副作用についても理解できるよう指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者本人に聞いたり家族に聞きながら、気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿うことはできないが、コロナ禍前は計画を立てて外出するようしていた。感染症が治まったら、積極的に外出する予定。	コロナ禍のため外出はなるべく自粛しているが、近隣へ散歩に出掛けている。週1回パン屋さんに来てもらったり、利用者が外に気持ちが向くように工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実施していない。外出した時に買い物の機会があれば、買う物を選んで頂き、職員が渡したお金を支払ってもらうことはある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある利用者には、手紙を書いたり、電話をかけたり受けたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施している。季節ごと壁画作りを行い、季節感を取り入れている。	梅まつり、桜まつり、夏祭り、七夕やクリスマスなどの季節を感じられる行事の壁画づくりを楽しんでいる。職員はプロジェクションマッピングを作成したりプロシジェクターを活用し、居心地の良い空間作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・食堂のテーブルの配置を変えたり、必要に応じて席替えをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に持ち込み可能な物を説明している。使い慣れた物やあると安心できる物を持参してもらっている。帰宅願望の強い利用者は本人・家族と相談しながら気分良く過ごせるよう工夫している。	ベッド、たんす、カーテン、布団は事業所で用意している。テレビ、家族写真、こたつ、仏壇など馴染みの物を持ち込みその人らしい居心地の良さに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置を示すマークを貼ったり、理解できない利用者には声掛けして少しでも分かって頂けるよう工夫している。		